

単位当たり分析(コスト・ドライバー分析)

・発生するコスト(人件費)は、その発生要因が時間数のみではなく、他の要因(コスト・ドライバー)に応じて発生する部分もあります。このように、コストの発生要因を分析し、単位当たりの時間数を算出することで、より深い分析を実施することを、コスト・ドライバー分析といいます(12頁)。

例えば、研修事業における研修回数や受講者数や、窓口業務における受付件数等をコスト・ドライバーといいます。

【事例】


・以下の事例では、A校舎で研修カリキュラムの制作に200時間を要しているのに対して、B校舎では研修カリキュラムの制作に400時間を要しています。一見すると、B校舎の業務の方が不効率でコストを費やしているように見えます。

・しかし、研修カリキュラムの制作は、**制作する研修カリキュラム数がコスト・ドライバー**と考えられます。

A校舎で1つのカリキュラムの作成に200時間を要しており、B校舎では4つのカリキュラムを作成するのに400時間を要していれば、B校舎のマテリアルの難易度が高すぎないか、または、B校舎のマテリアルのページ数が多すぎないかといった経営課題の検出にもつながります。

・単に業務に要した時間数を比較するのみではなく、そのためコスト・ドライバー分析を行うことで経営課題が検出できる可能性もあります。

	A校舎	B校舎	●●校舎	●●校舎
 研修カリキュラムの作成	200時間	400時間	●●時間	●●時間

	コストドライバー	A校舎	B校舎	●●校舎	●●校舎
 研修カリキュラムの作成	カリキュラム数	200時間 ÷1つのカリキュラム =200時間/カリキュラム	400時間 ÷4つのカリキュラム =100時間/カリキュラム		

上記の事例では、例えば、研修カリキュラムを各校で共有することや合同で制作することなどにより、全体としての業務の効率化を図る業務改善も考えられます。